アシュラム
ASHRAM

2025. 2月第675号

発行所　アシュラムセンター
523-0894 近江八幡市中村町 567-2
Tel 0748-33-4030
Fax 0748-33-8856

アシュラムセンターホームページ
www.ashramcenter.jp

編　集　アシュラム誌編集委員会

振　替　01050-6-53772
アシュラムセンター

印　刷　明文舎印刷商事（株）

解　題

アシュラムとはインドの言葉で「退修」という意味で、スタンレー・ジョーンズ博士によって日本に紹介されたものであります。祈りの生活をもってみ前に自らを整え、今日に於ける主のご委託にこたえんというのがその願いです。

シメオン黙想の家の玄関ドアには、八芒星の形をした窓がある。2つの正三角形の複合体のデザインは、この建物の随所に見られるのだ。

佐藤久勝氏は、ヴォーリズ建築事務所の建築デザイナーとして腕を振るわれていた方だが、残念ながら1931年、この自邸を完成させたのち、数週間で天へと帰られてしまう。しかし、私たちがよく知る、代表的ヴォーリズ建築には、彼の手によるものが多い。

たとえば、大丸心斎橋店、京都東華菜館、神戸女学院、関西学院、旧山の上ホテルなど、そこには、弱冠41歳で亡くなった佐藤氏の痕跡があちこちに残されている。

実は、これらの建物に共通するデザインが、かの八芒星なのである。講堂の天井に、レストランの壁板に、ロビーの床石に、それは用いられている。これは、イスラム教のモザイクの紋様として知られているが、別名「ベツレヘムの星」とも呼ばれている。今となっては、尋ねることは叶わないが、どうしてこの模様を、建築のあちこちに使われたのか、その意味を知りたいと願うのは私だけではないだろう。

「ベツレヘムの星」。それは、東方の占星術の博士たちが、目撃した救い主の誕生を告げる不思議な星であった。この占星術の学者（マゴイ・マギ）が、ゾロアスター教の魔術師であったのか、また、それぞれ、ペルシャの王メルキオール、インドの王カスパール、アラビアの王パルタザールと名がつけられた王たちであったのか、それらは美しい降誕の物語を彩る伝説の一つにすぎない。同様に、この大きく輝く星が、紀元前12年に現れたハレー彗星なのか、それとも突如として現れた超新星であったのか、それも定かではない。

しかし、漆黒の夜に、光を見出そうとするものにとっては、このベツレヘムの星への興味の尽きないものである。しかし、本当に大切なことは、誰が見つけたのかでもなく、それが何であったかでもない。ただ、長い長い歳月をかけ探し求めていたものが、幾多の困難を乗り越え見出そうとしていたものが、今「ついに幼子のいる場所の上に止まった」（マタイ2：9）のだ。この「ついに」と言う言葉に込められた思いこそ、私たち、救い主の誕生を喜び、そしてその再臨の日を待ち望むものの心情なのではないだろうか。

友よ、『チ。－地球の運動について－』というコミックとアニメとを知っているだろうか。「15世紀のヨーロッパを舞台に、禁じられた地動説を命懸けで研究する人間たちの生き様と信念を描いたノンフィクション作品」（「ウィキペディア」より）。中世カトリック教会の唱える天動説に対し、地動説を唱え、宗教裁判にかけられたガリレオの話はつとに知られている。「命を捨てても曲げられない信念があるか？世界を敵に回しても貫きたい美学があるか？」とはこのアニメのキャッチコピーだ。

真理はどこにあるのか、救いはどこにあるのか、それを見出すことは簡単なことではない。けれども、ついに星が、その上に止まる。その日を信じ、今年も生きていこう。

瞑想

東方で見た星が先立って進み、ついに幼子のいる場所の上に止まった。

マタイ2：9

主幹牧師　榎本　恵

降誕節後第二主日

このような人は主のおきてをよろこび、
昼も夜もそのおきてをおもう（詩篇一・二）

年頭の祈り

榎本 保郎

主のおきてをよろこび、昼も夜もそのおきてを思う。この一年こういう生活をしたいと願う。

「主のおきて」とは、主のみことばである。マリヤは主の使いのみ告げを聞いた時、ひどく胸騒ぎした。シモンは主のみことばを聞いた時「先生、わたしたちは」と思わず反発した。使徒パウロは「十字架の言は、滅び行く者には愚かである」と語っている。

しかし、マリヤは胸騒ぎしながらも「わたしは主のはしためです。お言葉どおりこの身になりますように」とみことばにいっさいをゆだねた。

反発しながらもシモンは「しかし、お言葉ですから、網をおろしてみましょう」と従った。パウロはしかし十字架のことばは「救にあずかるわたしたちには、神の力である」と告白している。

みことばは神のことばであるから、わたしたちの判断や理解を越えている。「それは、人がどんなに説明して聞かせても、あなたがたのとうてい信じないようなことなのである」（使徒13：41）

そういう主のみことばを喜ぶ生活、それはけっして安易なものではない。主イエスでさえ十字架を前にして「わたしの思いのままにではなく、みこころのままになさって下さい」と祈られた時、汗が血のしたたりのように地に落ちた、と聖書はしるしている。

わたしたちに祈りがないのは、わたしたちが神の愛を信じているからではなく、神のみことばに無関心になっているからではなかろうか。祈りは神のみことばを聞いたものがさけぶ叫びである。

「わたしたちの主イエス・キリストによって、神を喜ぶ」と語ったパウロが「自分のからだを打ちたたいて服従させるのである」とも語っていることを、わたしたちは見のがしてはならない。神の恩恵を喜びながらも、その恩恵にこたえていこうとしない自分ゆえに、主のみことばを喜ぶという生活は戦いなのである。

一年間には、この世の喜びに心奪われることもあるだろう。人間の持つ悲しみのゆえに、心が暗くなることもあるであろう。

でもどんな時にも、主のおきてを喜び、昼も夜もそのおきてを思う生活に生きたい。主を思う思いが、いつも心一杯にみちているような生活をしたい。

愛する兄弟姉妹がたよ。ともに今年こそ主のおきてを喜び、昼も夜もこれを思う生活に生かされようではないか。

◆日本基督教団今治教会在籍中の週報をまとめた『今は恵みの時』（一九六五年日本基督教団出版局刊行）を基に、保郎師召天25周年記念に出版された3部作の第三集『主にまかせよ、ちいろば牧師の黙想』榎本保郎・後宮俊夫著（二〇〇二年六月、榎本保郎牧師記念出版委員会）より

今治教会、幼稚園の庭にて。

第50回 年頭アシュラム 開会礼拝の祈り

鍬田 速明

イエスは主なり。

霊の火を消してはならない。神様、第50回の年頭アシュラムに参加できたことを心から感謝いたします。

私たちは毎朝15分、レビの時をもっております。今から100年前の高倉徳太郎先生の「朝の15分があなたを変える」という言葉に従い、私たちアシュラム運動を行う者も朝の15分聖書を拝読しお祈りを続けております。

けれども、私たちは自分一人で祈っていると時々暴走したり休んでしまったり、あるいは横道へそれたり雑音が入ってきたり、いろいろなことが起こりま

す。

今日このように一堂に会してあなたのみ言葉をもう一度新しく聴こうとしております。

今から2000年前、イエス様がガリラヤ湖のほとりで弟子たちに悟らせたが如く、今日私たちの耳にあなたのみ言葉をお伝えください。

どうか私たちの耳を開き、また心を開き、あなたのみ言葉をわたしたちの体全体に響き渡るようにお願い申し上げます。（続）

（日本メノナイトブレザレン教団 星田チャペル）（常任運営委員長）

第49回 加太アシュラムの恵み

松廣　優子

「あなたがたは、世の光です」マタイ5：14

第49回加太アシュラムが休暇村紀州加太で10月24日から26日にあり、初めて参加することができました。

こどもの学校での状況や進路のこと、自分の仕事の疲れで悩んでいた時に、岸和田栄光教会の西川先生を通じて榎本保郎先生のメッセージを聞かせていただき、アシュラムに導かれました。

初めての参加であるため、分かち合いなどできるかとても不安でしたが、ファミリーの皆様に助けられて、聖書を分かち合い、共に祈り合う恵みの時間を過ごすことができました。

参加者の年代が、私の親世代の方や信仰歴の長い方々で、信仰の証は私に勇気と励ましを与えてくださいました。

また、正直に自分の弱さを話すことができるファミリーの交わりに感動しました。

そして、1年間ファミリーのために、曜日を決めてとりなしのお祈りをすることを教えていただきました。

最初は、できるか不安でしたが、ファミリーと過ごす中で、それぞれの祈りの課題がよくわかるようになりました。また、私のためにも1年間とりなしのお祈りをしてくださるということも驚きでしたし、感謝でした。

アシュラムが終わり、自宅に戻り日常の生活になりました。「毎朝、祈れるかな」と最初は心配でしたが、祈る力がわき「今日は火曜日。○○さんの祈りの日」と覚えることができるようになり、毎朝の祈りができております。

また、月曜日は私のためにお祈りしてくださる日ということで、月曜日の出勤が苦ではなく、皆さんに祈られているという実感があり、仕事は順調です。こどもは、大学が決まり洗礼を受けることになりました。ファミリーとの出会いを通じて、これまでの孤独なクリスチャン生活から解放され、毎朝の祈りと一日一章を通じて、神の愛を体験させていただいております。

第49回加太アシュラムで「喜ぶ者と共に喜び、泣く者と共に泣きなさい」と共に過ごしてくださった皆様に感謝申し上げます。

（日本オープンバイブル教団 泉キリスト栄光教会）

2025年主幹牧師のビジョン(1)
～アシュラムセンター開設50年を迎えて～

そこで今、申し上げたい。あの者たちから手を引きなさい。ほうっておくがよい。あの計画や行動が人間から出たものなら、自滅するだろうし、神から出たものであれば、彼らを滅ぼすことはできない。もしかしたら、諸君は神に逆らう者となるかもしれないのだ。（中略）それで使徒たちは、イエスの名のために辱めを受けるほどの者にされたことを喜び、最高法院から出て行き、毎日、神殿の境内や家々で絶えず教え、メシア・イエスについての福音を告げ知らせていた。　使徒５：38-42

17世紀後半のドイツに起こった敬虔主義は信仰覚醒運動であって、その発端は、ルター派の教会が次第に形骸化し内的な生命力を喪失し、信仰が衰えたとき、原始キリスト教の愛と単純と力をもって道徳的な「完全」をめざすことによって起こった。この運動はルターの信仰を絶えず導きとして正統な教会の教えにとどまりながら、その教えの中心を「再生」に置いて、新しい創造・新しい被造物・新しい人間・内的な隠れた心情・神の子としての道徳的な完成などをめざして展開した。
金子晴勇『ドイツ敬虔主義著作集（全10巻）の刊行に際して』より

いよいよ、私たちアシュラムセンターは、その開設の時より50年の時を迎えようとしています。私たちは、この年を、大いなる喜びと、感謝を持って迎えることができました。

しかし、それは平坦な道のりをただぼんやりと来た50年ではありませんでした。まさに、その始まりから「行先を知らずして」の出発であり、望みを置いた指導者は次々に倒れ、その都度「お前たちは、誰を頼りにするのか」という神様からの厳しい問いかけを受ける、そんな試練の連続でありました。

「鼻から息をする者を頼りとせず、鼻に息を吹き入れる方をのみ頼りにせよ」、そう自らに問いながら、来し方を振り返るとき、ただただ恐れ入るばかりです。

けれども、主の御名はほむべきかな。

こんな信仰弱く、揺れ動くばかりの私を選び、主はアシュラムセンター50年の歩みを記念する年に立ち合わせてくださったのです。先達たちが、自らの信仰をかけて、聴従してきた50年の歴史。これは、何にも変え難い私たちの誇りなのです。「あの計画や行動が人間から出たものなら、自滅するだろうし、神から出たものであれば、彼らを滅ぼすことはできない」（使徒５：38）。このガマリエルの言葉は、真実です。しかし、同時にそれは、いつでも「『我々の父はアブラハムだ』などと思ってもみるな。言っておくが、神はこんな石からでも、アブラハムの子たちを造り出すことがおできになる」（マタイ３：９）という洗礼者ヨハネの言葉と共に、思い起こされなければなりません。

私たちは、いつもこの「鼻から息する者」を恐れ、権力の前に跪（ひざまず）き、金銀の前にひれ伏してはならないのです。　（続く）

琵琶湖畔の宿にて。

みもとに･･･

武藤 久子姉 84才（2024.12.24 召天）

いつも笑顔の良き隣人。恵師家の隣にお住まいで、親しくお交わり。センター聖書教室をとても楽しみに。

秋田ご出身、元看護師。ヴォーリズ記念病院ホスピスにて、ボランティアを続けておられた。お孫さん達に信仰が継がれますようにと祈られ、幻？のアシュラムセンター子ども会〝ちいろばひろば〟の唯一参加者！

センター聖書教室にて。2017年３月。前列中央が久子姉。右和子母、左田中寿子姉、３人天にて再会されてますネ！

河村 琢郎兄 96才（康子の父／2024.12.31 召天）

６年前、要介護の妻耐子と共に静岡・富士宮よりアシュラム村移住。１週間後に耐子召天。以後、旧牧師館にて孫光太と暮らす。野菜、花等育てたり、集会にも参加。２年前、今度は次女・裕子が父の介護のため移住。共に暮らし、安堵しつつ、安らかに天に帰る。

アシュラム、甲西伝道所、大宮共立教会、静岡、親族他多くの皆様、大変お世話になりました！感謝！戦争のない世界となりますように！

⬅う～む。これはうまそうなミニトマトだな～。旧牧師館の畑にて。

いえじま 雑記 20　新しい年に

昨年の12月31日は娘たちとかき氷を食べていたわたしですが、その翌日の夜は祖父を天国に送るために、寒さで空気のピンと張り詰めた神戸空港にいました。

前夜式に、お葬式、胃腸炎の大流行と2025年は慌ただしく始まり、祖父を失った世界はやはりどこか不完全で、何かが欠けているように感じます。これで祖父母はみないなくなりました。自分のことを無条件で愛し、祈ってくれていた存在が一人、また一人と消えていくのはとても心細いことでもありますが、同時にそんな愛や祈りが完全に消えてしまったとはどうしても思えません。

形を変え、色や匂いを変え、そういう類の愛や祈りは続いていくのでしょう。たとえ目には見えずとも。祖父母たちとまた会える日を楽しみに、新しい年を迎えたいと思います。

今年の春には二冊目の単著が出版される予定です。好きな音楽について綴ったエッセイです。ぜひ手に取っていただけると嬉しいです。翻訳本もいくつか出るはずです。たゆまず書き続け、はじめにあったという言葉を求めたいと思います。

皆様の新しい一年がよいものとなりますよう祈っております。

榎本 空（ノースカロライナ大学院生、沖縄伊江島在住）

⬅第50回年頭アシュラム、奉仕者平野克己師と。ビジョンを語る会にて。

アメリカ、アンマシューズ女史を訪ねて

河村兄のご葬儀。ちいろば牧師記念チャペルにて。

⬅年頭後、シメオン黙想の家にご宿泊の島田姉、貝出姉。尾﨑恵姉のプレートに触れたく…

⬅沖縄サマリア人病院ディケアの皆様の詩集、是非！

あとがき

第50回年頭アシュラムも祝福のうちに終えることができた。私たちのやってきたことが、決して間違っておらず、なおこの時代の中にあってますます必要とされることであると信じている。どうか、これからも共に、み言葉に聴き祈るアシュラム運動を続けていきたい。

秋には、いよいよ50周年記念アシュラムが計画されている。10年ぶりにスタンレー博士の孫娘、アンマシューズ女史も、来てくださる。

私たちの歩みを振り返りつつ、これからのアシュラム運動のビジョンを求め祈り続けていこう。（恵）

神は独り子を世に送り、わたしたちが生きるようになるためである。　一ヨハネ4:9

故河村琢郎兄の聖書に挟まれていた和子母からの手紙より

中止、又はオンラインに変更もあり。
ホームページ、電話等でご確認下さい。直前の変更の場合あり！

【主な問い合わせ先】0748－33－4030 アシュラムセンター
【Zoom・インターネット等 問い合わせ先】080－3983－8140

２月の聖書教室など

7㈮	阪神ミニアシュラム（神戸聖愛教会 PM1:00）
8㈯	聖書と学ぶ会（Zoom PM8:00）
10㈪	福岡聖書教室（博多クリオコートホテル PM1:30）
11㈫・祝	Zoom聖書教室（Zoom PM7:30）
17㈪	使徒書に学ぶ会（Zoom AM10:30、PM7:30）
18㈫	大阪聖書教室（大阪クリスチャンセンター AM10:30）
19㈬	みんなのカフェちいろば聖書入門講座（京都・伏見区深草 PM1:30）
21㈮	センター聖書教室（アシュラムセンター AM11:00）
23㈰	ちいろば牧師記念チャペル夕礼拝（PM5:00）
24㈪・祝	静岡聖書教室（旧・英和女学院宣教師館 AM10:00、PM1:30）
25㈫	東京聖書教室（御茶ノ水クリスチャンセンター４F AM10:30）
25㈫	美しい足の会（Zoom AM10:30、PM7:30）
3/14㈮	阪神ミニアシュラム（神戸聖愛教会 PM1:00）

２月のアシュラムなど

3㈪～5㈬	第42回 台湾愛修會 奉仕者　榎本　恵師	0748－33－4030 アシュラムセンター
23㈰～24㈪・祝	修道場アシュラム （アンナ祈りの家、シメオン黙想の家） 奉仕者　榎本　恵師	0748－33－4030 アシュラムセンター

３月のアシュラムなど

20㈭～22㈯	修道場アシュラム （アンナ祈りの家、シメオン黙想の家） 奉仕者　榎本　恵師	0748－33－4030 アシュラムセンター

４月以降のアシュラム予定

４月27㈰～28㈪	修道場アシュラム
５月１㈭～３㈯	修道場アシュラム
５月４㈰～５㈪	修道場アシュラム
６月19㈭～22㈰	沖縄平和巡礼の旅
11月24㈪・祝～26㈬	アシュラムセンター創立50周年記念 第20回 国際正義・平和アシュラムin近江八幡

献金のお願い

皆様のお祈り、お支えに感謝いたします。
引き続きお祈りとご献金をお願い申し上げます。

キャッシュレス献金はこちらのQRコード
または「オンライン献金.com」と検索ください。
アシュラムセンター運営
記号番号　01050-6-53772

みことば

センター玄関にて

日本キリスト教団取手教会
牧師　金子敏明

「真ん中に立ちなさい」　　ルカ６：６～11

手の障害を抱えた人に「真ん中に立ちなさい」とイエスは宣言された。原文では「寝ている状態から起き上がらせる」「～の力に対して立ち上がる」という意味がある。イエスの復活は「死の力に抗して立ち上がる」ことであり、癒された人が新たな力を得て歩みだすことも同様なのだ。取税人レビが弟子となる場面では「彼は…立ち上がり、イエスに従った」聖霊降臨の場面では「立ち上がって、声を張り上げ、話し始めた」と記されている。

「**安息日に律法でゆるされているのは、善を行うことか、悪を行うことか。命を救うことか、殺すことか**」実は原文には“律法”という言葉がない。つまりイエスは「律法で許されているかどうか」ではなく「安息日には善をなすべきなのか、悪をなすべきなのか」という話なのだ。

考えてみると「手になんらかの障害がある人」をいますぐに癒さなかったからといって、それで責められるものではない。しかし、この言葉には「この病人を放っておくなら、それは悪を行い、命を殺す者だ」と言っておられるのだ。

私たちは安息日に礼拝をささげている。礼拝は「お勉強の場」ではなく今にも失われそうな命を救うための時である。教会はそういう力になっているだろうか？そういう礼拝をささげているだろうか？そういう共同体になっているだろうか？かつて日本の教会に来た宣教師が「彼らはうつむいてメモを取っているか、寝ているかだ。目が生き生きとしていない。死んでいるのか？」とコメントして帰ったという。

実はマタイとルカは、マルコに記されていた「安息日は人のためにあるのであって、安息日のために人があるのではない」という言葉を削除している。当時としては過激な発言だったのだろう。でも本来は神様が私たちのために定められた日であり、私たちは心から感謝をもって安息を味わうべきなのだ。それなのに、本当に助けを必要としている人を助けられなくなっている。「手の萎えた人」には緊急性はなかった。けれども、イエス様に出会ったその時が救いの時であるべきなのだ。

すべてを吟味し　良いものを大切にしなさい。　一テサロニケ五、二一　恵